

循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来等の特殊外来を設け、地域連携を重視した医療を提供した。

2009年度から本格的に脳神経外科診療を開始し、脳動脈瘤のクリッピング・脳腫瘍摘出術・開頭血腫除去術・シャント等の手術を行っているが、2010年度は症例数も5割り増しどなっている。また2010年度から熊本大学医学部附属病院心臓血管外科より佐々医師を迎えて、血管外科の診療を開始し、年間20例の手術を行っている。整形外科は、4月・5月は一時手術対応を休止していたが、6月からは本格的に手術を再開し、例年通りの医療が提供できる体制に戻った。4月から泌尿器科は非常勤となつたが、済生会熊本病院の町田二郎副院長・白井医師の応援により従来通りの外来診療に加え、前立腺生検、尿管ステント留置、TUR等の手術が実施できた。

熊本病院から内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)のエキスパートである消化器内科藤本医師を迎えて、消化器疾患の診断と治療はさらに充実したものになった。内視鏡的胃瘻

造設術(PEG)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)等の処置内視鏡は従来から行っていたが、治療手段にESDが加わり、さらに細やかな治療手段の選択が出来るようになった。2010年度は約20例のESDを行つた。治療の低侵襲化を目指し、外科でも腹腔鏡下の結腸切除・胃切除・胆囊摘出・虫垂切除等を積極的に行つた。

内科領域では、従来から庄野副院長により精力的な診療がなされているが、熊本病院から礒部医師を迎え、心臓血管外科佐々医師にも協力してもらい更に多くの患者さんを治療できる体制になった。

また、癌化学療法、緩和医療、褥創治療、NST等の多職種で構成されるチーム医療でも、地域のニーズに応えられるように努力した。

外来延患者数は、39,411人(前年度39,002人)で、409人増加した。

新入院患者数は1,767人(前年度1,694人)と73人増加した。救急患者数は、5,245人(前年度4,946人)と299件増加し、救急車搬入数が1,015件(前年度846件)と169件の増加がみられた。

